

富士通グループのCSR

富士通グループにとってのCSRとは、FUJITSU Wayの実践を通してさまざまな社会課題に対応し、持続可能なネットワーク社会の発展に貢献していくことです。

さまざまなステークホルダーとのコミュニケーションを密にし、社会課題へのセンシティブリティを高め、責任ある企業活動に努めています。



CSRに対する考え方

富士通グループの理念・指針であるFUJITSU Wayの実践を通じて

富士通は、1935年に公共性の高いインフラの発展に先端技術をもって貢献する会社として出発して以来、その歩みを支えてきた歴代の経営層の思想や精神を「FUJITSU Way」として凝縮・明文化し、富士通グループの経営の軸に据えています。

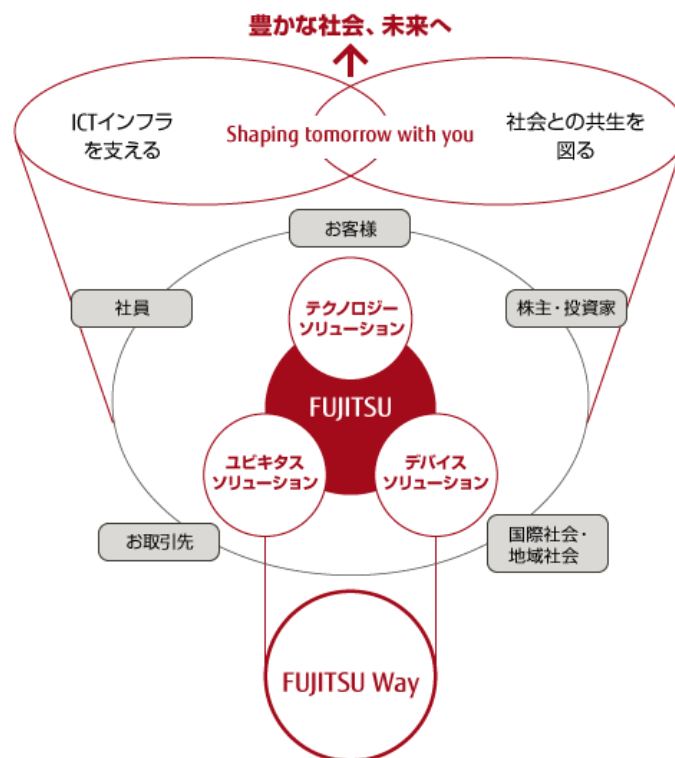
富士通グループにとってのCSRとは、このFUJITSU Wayの実践を通して様々な社会課題に対応し、持続可能なネットワーク社会の発展に貢献していくことです。そのためには、事業の経済面を追求するだけでなく、社会・環境面を含めた高い倫理観と適正な企業統治に基づく経営を遂行していく必要があります。

こうした認識のもと、富士通グループはFUJITSU Wayに則ってグローバルな経営を推進し、様々なステークホルダーとのコミュニケーションを密にし、社会課題へのセンシティブリティを高め、責任ある企業活動に努めています。

(注) 富士通グループのステークホルダー：

富士通グループは、「お客様」「社員」「お取引先」「株主・投資家」「国際社会・地域社会」をステークホルダーとしています。また、特に「政府」「NPO」「NGO」なども「国際社会・地域社会」の中の重要なステークホルダーと考えています。

• [FUJITSU Way](#)



富士通グループの理念・指針(FUJITSU Way)

社会における富士通グループの存在意義、大切にすべき価値観、日々の活動において社員一人ひとりがどのように行動すべきかの原理原則。

FUJITSU Way とは

富士通は2008年4月1日に富士通グループの理念・指針であるFUJITSU Wayを改定し、新たなFUJITSU Wayをスタートしました。

FUJITSU Wayは、富士通グループが今後一層の経営革新とグローバルな事業展開を推進していく上で不可欠なグループ全体の求心力の基となる企業理念、価値観及び社員一人ひとりがどのように行動すべきかの原理原則を示したものです。

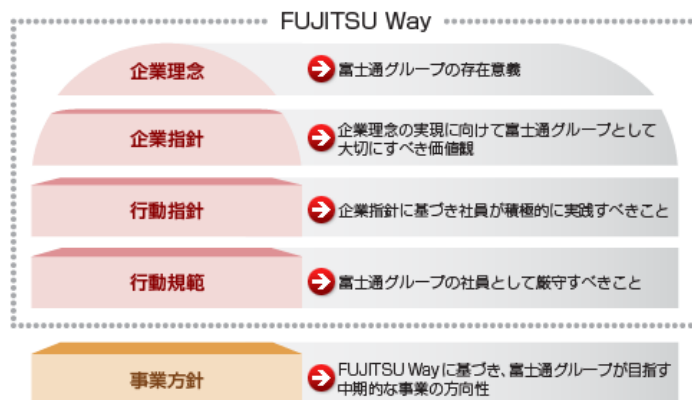
すべての富士通グループ社員は、FUJITSU Wayを等しく共有し、日々の活動において実践することで、グループとしてのベクトルを合わせ、さらなる企業価値の向上と国際社会・地域社会への貢献をめざしていきます。

FUJITSU Wayの体系

FUJITSU Wayは企業理念、企業指針、行動指針、行動規範の4要素から成り立っています。

まず「企業理念」では、富士通グループの存在意義、社会において果たすべき役割を示し、次に「企業指針」では企業理念の実現に向けてグループとして大切にすべき価値観を表しています。そして「行動指針」、「行動規範」ではそれぞれ富士通グループ社員として積極的に実践すべきことと必ず遵守すべきことを掲げています。

さらに「事業方針」はFUJITSU Wayに基づき定義された中期的な事業の方向性を示しており、全ての事業をこれに基づき展開しています。



➡ 企業理念

富士通グループは、常に変革に挑戦し続け
快適で安心できるネットワーク社会づくりに貢献し
豊かで夢のある未来を世界中の人々に提供します

[さらに詳しい情報\(企業理念\) >>](#)

➡ 企業指針

目指します

社会・環境 社会に貢献し地球環境を守ります

利益と成長 お客様、社員、株主の期待に応えます

株主・投資家 企業価値を持続的に向上させます

グローバル 常にグローバルな視点で考え判断します

大切にします

社員 多様性を尊重し成長を支援します

お客様 かけがえのないパートナーになります

お取引先 共存共栄の関係を築きます

技 術 新たな価値を創造し続けます

品 質 お客様と社会の信頼を支えます

[さらに詳しい情報\(企業指針\) >>](#)

➡ 行動指針

良き社会人 常に社会・環境に目を向け、良き社会人として行動します

お客様起点 お客様起点で考え、誠意をもって行動します

三現主義 現場・現物・現実を直視して行動します

チャレンジ 高い目標を掲げ、達成に向けて粘り強く行動します

スピード 目標に向かって、臨機応変かつ迅速に行動します

チームワーク 組織を超えて目的を共有し、一人ひとりが責任をもって行動します

[さらに詳しい情報\(行動指針\) >>](#)

➡ 行動規範

- 人権を尊重します
- 法令を遵守します
- 公正な商取引を行います
- 知的財産を守り尊重します
- 機密を保持します
- 業務上の立場を私的に利用しません

[さらに詳しい情報\(行動規範\) >>](#)

➡ 事業方針

- フィールド・イノベーションにより、自らの革新とお客様への価値提供を追求します
- すべての事業領域において、地球環境保護ソリューションを提供します
- グループ各社が相互に連携し、グローバルな事業展開を加速します

[さらに詳しい情報\(事業方針\) >>](#)

FUJITSU Way浸透活動

グループ全体で浸透活動を展開

富士通グループでは、グループ全体の求心力をさらに高め、一層のガバナンスを強固にするべく、FUJITSU Wayを国内外の全てのグループ会社に適用しています。各社、各部門ではFUJITSU Way推進責任者を選出し、経営トップとともにFUJITSU Wayを語り、さらに組織特性に応じた浸透施策を展開し、責任ある企業活動を推進しています。

FUJITSU Way推進責任者との連携

富士通グループ内へのFUJITSU Wayの確実な浸透を図るべく、年度方針説明会や研修会を継続的に実施しています。

2009年度には、国内グループ会社の約250名のFUJITSU Way推進責任者を対象とした研修会、2010年度には、活動方針説明会を開催し、各組織内の浸透活動の事例紹介や活動における課題、解決に向けた取り組みなどについて、情報共有を行いました。

また、2011年10月から2012年2月にかけて、新しく任命されたFUJITSU Way推進責任者を中心に、研修を開催しました。研修には約110名が参加し、FUJITSU Wayに込められた想いについての講義に加え、社員研修施設である富士通DNA館（沼津工場内）で、社史をかたちづくってきた製品を振り返りながらFUJITSU Wayの原点である「富士通らしさ」を感じ取り、今後の現場浸透活動にどのように活かすかを議論し、ノウハウの共有を図りました。



2011年度FUJITSU Way推進責任者研修

e-Learningの実施

FUJITSU Wayの理解度向上を目的として、国内外の全グループ社員を対象としたe-Learningを実施し、実践に向けた考え方を整理し、受講者の意識向上を図っています。

国内では、2009年度上期にe-Learningの一斉受講を実施し、グループ社員約10万名がこれまでに受け継がれている経営層の言葉を紐解き、FUJITSU Wayの原点を再認識しました。また、海外については、2011年度より16の言語によるe-Learningの提供を開始し、これまでに約35,000人が受講しています（国内外のべ研修時間61,700時間、2012年5月末現在）。より多くの社員が母国語で受講できるよう、今後さらなる多言語化を進める予定です。

受講後のアンケートでは、約89%の受講者が「FUJITSU Wayを実践していこうと思った」と決意を表明しています。

FUJITSU Wayツールの拡充

富士通グループでは、国内外の社員にFUJITSU Wayを記載した携帯用のスモールカードおよび解説書を配布し、職場ではポスターを掲示しています。またイントラネット上では、2010年4月に就任した山本正巳社長がFUJITSU Wayに込める想いを語る動画を配信しています。

部門内浸透活動の展開

FUJITSU Way推進責任者が中心となり、幹部社員とともに社員への浸透活動を展開しています。活動にあたっては、各部門の方針や目標とFUJITSU Wayの関係を明確に示し、対話を図るなどして、社員の気づきややりがいを喚起するように努めています。こうした活動の結果、ES（従業員満足度）調査においては、「目標や目的の達成のために良好なチームワークが発揮されている」「所属する組織の方針が明確」などの項目において、改善効果が確認されています。

浸透活動事例

株式会社FUJITSUユニバーシティ

2010年度には、2009年度に実施した「FUJITSU Wayを考える会」に引き続き、「FUJITSU Wayを振り返る会」を実施し、「FUJITSU Wayを考える会」以降の個人およびチームでの活動内容と、全社での組織風土づくりに向けた意識を共有し、組織・階層を越えた対話を通じて社内での一体感を醸成しました。派遣社員、役員を含む全従業員を対象に開催したことで、以下の成果を上げています。

- 対話を通じてFUJITSU Wayを日常業務で実践するイメージをつかむことができ、FUJITSU Wayへの理解と意識がさらに高まった。
- 各自が日々の業務をしっかりと振り返る時間を持つことができ、かつ「自分は何をすべきか」を改めて明確に認識することができた。
- 役員から派遣社員まで組織・階層を越えた対話により、全社の一体感および仲間意識が高揚した。

FUJITSU Way推進責任者（事務局）のコメント

参加者からは、中身の濃い議論ができ、理解が深まったという意見が多く聞かれました。指摘された課題を解決しつつ、継続的にこうした「場」を提供するとともに、富士通グループ内へのFUJITSU Way浸透のためのパッケージとして展開することも考えています。



レゴを使ってのメンバー紹介



実践事例をストーリーで発表

富士通株式会社 SBG（注1） 自律改善推進室

富士通では、2007年度より自律改善活動を進めてきましたが、2011年度には組織の目標達成に向けて積極的に行動する社員の育成を支援するため、FUJITSU Wayの行動指針を軸に見直しを行いました。本活動はソリューションビジネスを提供するグループ（社会基盤、金融、公共・地域、ビジネスサポート）にて展開し、各職場での推進者と幹部社員の協力により、若手社員をも巻き込み、職場における改善活動の活性化につなげています。

各職場の幹部社員や推進役向けの座学では、歴代の経営層の教えを凝縮したFUJITSU Wayに含まれる言葉の背景にある意味を伝え、改善活動を通じて、どのように現場へ活かすかを考え、実践していきます。普段から各組織で行われている既存の活動とFUJITSU Wayで掲げる価値観を改めて連動させることにより、社員がより高い目標に挑み活躍できる職場風土が醸成されています。

（注1）SBG：

ソリューションビジネスグループの略

CSR基本方針

地球と社会の持続可能な発展への貢献のために

富士通グループのCSRは、FUJITSU Wayの実践です。全ての事業活動において、マルチステークホルダーの期待と要請を踏まえFUJITSU Wayを実践することにより、地球と社会の持続可能な発展に貢献します。

「CSR基本方針」と「5つの重要課題」を策定

2010年12月、富士通グループは「CSR基本方針」を制定し、その実践にあたって優先的に取り組むべき「5つの重要課題」を設定しました。

富士通グループは、この「CSR基本方針」に基づいた「5つの重要課題」に取り組んでいくことで、ステークホルダーの皆様のような要請や期待に一層力強く応えていくとともに、地球と社会の持続的な発展に大きな貢献を果たす真のグローバルICT企業を目指します。さらに、重要課題への取り組みについては、中期・短期目標を設定し、PDCAサイクルの運用を通じて着実に取り組みを前進させていきます。また、その進捗状況を社内外に開示、共有しながら経営と一体となったCSR活動を展開していきます。

外部有識者との議論を重ねて

重要課題の選定にあたっては、社内の関連部門の責任者で構成されるCSR推進タスクフォースのもとに設置された基本戦略ワーキンググループで、GRIガイドラインなど国際的に認められたCSRの規範やグローバルな社会課題を考慮しつつ、富士通が優先的に取り組むべき事項について議論を重ねました。また、外部の有識者を招いたステークホルダーダイアログも開催し、富士通への期待と要請について理解を深めました。

5つの重要課題

CSRの実践にあたっては、下記の5つの課題に重点的に取り組みます。これらの課題への対応を通じて、グローバルICT企業として責任ある経営を推進します。

富士通グループが取り組むべき5つの重要課題は、大きく3つの項目に分類されます。

1. 企業活動を通じた社会的課題の解決

富士通グループは、企業活動を通じて社会の様々な課題を解決し、地球と社会の持続可能な発展に貢献します。

- 重要課題1. ICTによる機会と安心の提供
世界の70億人をICTがつなぎ・支える社会の実現に貢献し、人々に夢のある機会と安心を提供する。
- 重要課題2. 地球環境保全への対応
ICTによりグローバルな環境課題の解決に貢献するとともに、自らの環境負荷を低減する。

2. CSR活動の基盤強化

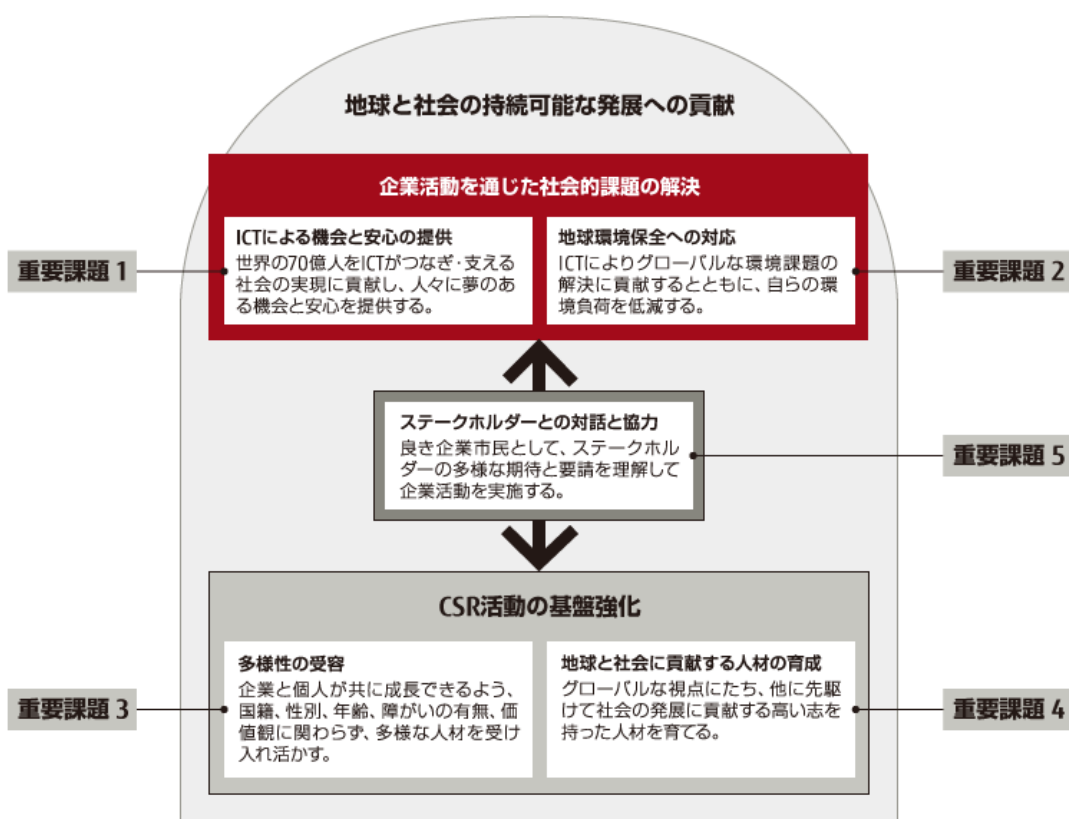
地球と社会の持続可能な発展に貢献するため、社員がグローバルな視野を持ち、いきいきと活躍できるCSRの基盤を強化します。

- **重要課題3. 多様性の受容**
企業と個人がともに成長できるよう、国籍、性別、年齢、障がいの有無、価値観にかかわらず、多様な人材を受け入れ活かす。
- **重要課題4. 地球と社会に貢献する人材の育成**
グローバルな視点に立ち、他に先駆けて社会の発展に貢献する高い志を持った人材を育てる。

3. ステークホルダーとの対話と協力

3つ目として、上記2つの項目を多面的視点から推進するため、従来のビジネスの枠組みを越えた幅広いステークホルダーとの関係構築に取り組みます。

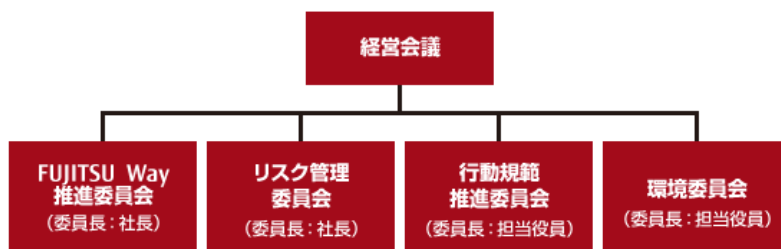
- **重要課題5. ステークホルダーとの対話と協力**
良き企業市民として、ステークホルダーの多様な期待と要請を理解して企業活動を実施する。



CSR推進体制

■ 全社委員会

富士通のCSR活動の基軸となるFUJITSU Wayの浸透、定着を一層図る体制として、経営会議直属の委員会である「FUJITSU Way推進委員会」「リスク管理委員会」「行動規範推進委員会」「環境委員会」の4つの委員会を設置しています。



CSR推進タスクフォース

下記部門により構成される「CSR推進タスクフォース」において、CSRに関するKPIの策定、情報発信、新たな社会貢献事例や持続可能な社会ビジネスのありかたなどについて検討しています。



ISO26000を活用したCSR活動

富士通では2011年度から、社会的責任規格「ISO26000」（2010年11月発行）を活用し、CSR活動の深化に取り組んでいます。

1. チェックリストの作成

2011年9月、社内横断ISO26000プロジェクトにおいて、外部専門家の方々から支援をいただき、ISO26000の7つの中核主題をもとにしたチェックリストを作成しました。各担当者がISO26000の内容に対して理解を深め、原文の難解な表現を社内の関係者にも理解しやすい内容に変更し、全252項目の設問となりました。



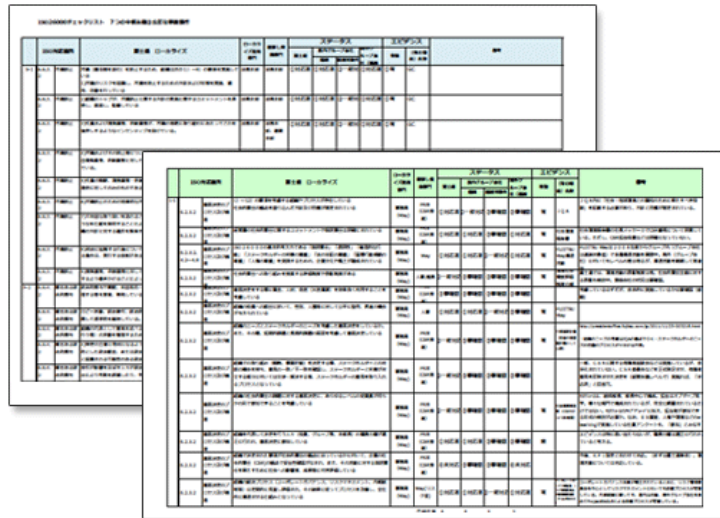
ISO26000勉強会

ISO26000プロジェクト体制図（事務局：CSR推進部、FUJITSU Way推進室）

ISO26000（7つの中核主題）	主管部門
組織統治	FUJITSU Way推進室
人権	人事部
労働慣行	労政部
環境	環境本部
公正な事業慣行	法務本部、購買本部
消費者課題	品質保証本部
コミュニティー参画および発展	CSR推進部

2. 実施状況の確認

2011年11月以降は、社内横断ISO26000プロジェクトにおいて、チェックリストの各項目を、(1)「対応済」、(2)「一部対応」、(3)「要確認」、(4)「未対応」の4段階に評価し、2011年度時点の実施状況を確認しました。その結果、富士通では252項目中178項目が「対応済」、74項目が「一部対応」または「要確認」「未対応」となり、人権、労働慣行、環境などを中心に、全体を通して取り組みが高い水準で対応できている一方で、海外を含めた関係会社のCSR対応状況の把握が課題であることが判明しました。



3. 今後の対応予定

2012年4月以降の富士通の取り組みに関しては、事務局で「一部対応」「要確認」「未対応」となっている74項目に関する詳細な分析を実施、併せて関係会社向けのチェックシートを策定することで関係会社のCSR状況の実態調査を実施していく予定です。

専門家の声

2011年度に、ISO26000を参考にグループ内のCSR活動状況を把握すべく、チェックリストの作成および社内評価作業についてご協力させていただきました。その結果、富士通では、FUJITSU Wayを基盤として、高水準での活動が行われていることが確認されました。

一方、海外を含めたグループ会社については、その活動をより的確に把握するための取り組みが必要と考えられます。併せて、富士通グループのICTを通じた社会課題の解決に向けた取り組みが、一層積極的に行われることを期待したいと思います。



(株)クレイ
グコンサルティング
代表取締役
小河 光生 様

国連グローバル・コンパクト

富士通は2009年12月、国連が提唱する「グローバル・コンパクト」への支持を表明しました。富士通グループは、グローバル・コンパクトが掲げる10原則に基づき、グローバルな視点からCSR活動に積極的に取り組むことで、国際社会の様々なステークホルダーからの要請に応えるとともに、真のグローバルICT企業としての責任ある経営を推進し、持続可能な社会づくりに貢献していきます。



国連グローバル・コンパクトとは

国連グローバル・コンパクトは、「人権」「労働基準」「環境」「腐敗防止」の4分野において、企業が遵守すべき10原則を示したものです。

人権

- 原則1. 企業はその影響の及ぶ範囲内で国際的に宣言されている人権の擁護を支持し、尊重する。
- 原則2. 人権侵害に加担しない。

労働

- 原則3. 組合結成の自由と団体交渉の権利を実効あるものにする。
- 原則4. あらゆる形態の強制労働を排除する。
- 原則5. 児童労働を実効的に廃止する。
- 原則6. 雇用と職業に関する差別を撤廃する。

環境

- 原則7. 環境問題の予防的なアプローチを支持する。
- 原則8. 環境に関して一層の責任を担うためのイニシアチブをとる。
- 原則9. 環境にやさしい技術の開発と普及を促進する。

腐敗防止

- 原則10. 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗を防止するために取り組む。

2012年7月31日時点

「富士通グループ社会・環境報告書2012【詳細版】」に記載の2011年度のCSR活動と国連グローバル・コンパクトとの関連は「[富士通グループ社会・環境報告書 GRIガイドライン対照表](#)」をご参照ください。

SRI（社会的責任投資）

富士通は、以下のSRIに関する株価指標およびファンドに組み入れられています。

SRIに関する株価指標への組み入れ状況

名称	設定会社名
<p>Dow Jones Sustainability Indexes (Asia Pacific)</p> 	<p>ダウ・ジョーンズ社（米国） SAM Group（スイス）</p>
<p>FTSE4Good Index Series</p> 	<p>FTSEインターナショナル社（英国）</p>
<p>oekom research</p> 	<p>oekom research社（ドイツ）</p>
<p>モーニングスター 社会的責任投資株価指数</p> 	<p>モーニングスター株式会社</p>

主なSRIファンドへの組み入れ状況（日本）

ファンド名称	運用会社
<p>住信SRI・ジャパン・オープン (グッドカンパニー)</p>	<p>住信アセットマネジメント株式会社 (2012年4月現在)</p>
<p>損保ジャパン・グリーン・オープン (ぶなの森)</p>	<p>損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社 (2012年4月現在)</p>
<p>三菱UFJ SRIファンド (ファミリー・フレンドリー)</p>	<p>三菱UFJ投信株式会社 (2012年2月現在)</p>
<p>日興エコファンド</p>	<p>日興アセットマネジメント株式会社 (2012年5月現在)</p>
<p>日本株式SRIファンド</p>	<p>三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社 (2012年4月現在)</p>